

第1回 安曇野暮らし支援協議会 会議概要

1	審議会名	第1回 安曇野暮らし支援協議会
2	日 時	平成28年3月30日 午後2時00分から午後3時20分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎 3階 共用会議室307
4	出席者	中澤 美穂委員、後藤 憲二委員、堀井 三郎委員、高井 健慈委員、 樽沼 秀隆委員、望月 彰委員、宮崎 崇徳委員、横田 耕太郎委員 矢原 義彦委員、上条 洋委員
5	市側出席者	小林政策部長、関政策経営課長、北條企画担当係長、企画担当丸田主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0 人 記者 3 人
8	会議概要作成年月日	平成28年 4 月 12 日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開 会 (関課長)
- (2) 委員委嘱
- (3) あいさつ (市長)
- (4) 自己紹介
- (5) 会長及び副会長の選任について
- (6) 協議事項 (議事進行：望月会長)
 - ① 平成28年度事業計画について
 - ② 協議会運営方法について
 - ③ その他
- (7) 閉 会 (中澤副会長)

会長及び副会長の選任について

事務局：設置要綱に基づき、会長、副会長は委員の互選により選出となっている。
委 員：事務局一任でお願いしたい。
事務局：事務局案として、会長にNPO安曇野ふるさとづくり応援団の望月 彰委員、副会長に安曇野市商工会の中澤美穂委員にお願いしたいが、いかがか。
委 員：(異議なし。)拍手により承認。

2 審議概要

- (1) 平成28年度事業計画について (事務局より説明)

委 員：4「移住者交流会事業」について、具体的に決まっているか。
事務局：この協議会の中で検討していただきたい。まずは移住者の把握から始める必要があると考えている。
委 員：運営方法にも関連するが、事業2～5について、協議会として「いつ」、「どのように」関わっていけばよいか。具体的なスケジュール等は決まっているか。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

事務局：例えば、おためし住宅については、効果的な運営方法があれば検討をお願いしたい。
他の事業についても同様である。

セミナーであれば、例えば起業の相談があれば商工会にお願いするなど、専門的な立場で協力をお願いしたい。

ツアーについては、現在は冬場を体感するというので実施しているが、例えば起業や不動産など、テーマを決めたツアーも検討したい。また、旅行業法の関係で市ではできない宿泊を伴うツアーなど、観光協会のご協力を得ながらお願いしたい。

委員：今までの取り組みを知らない委員も多いと思われるため、市の取り組みの経過を次回会議等で紹介してほしい。例えば、セミナーの参加者やどのような事業を実施してきたかなど、これまでの取り組みを参考にしていくことで検討が広がると思われるので、提案として申し上げたい。

事務局：今後、資料を作成してご提示したい。

会長：事業については、ある程度決まっていることとこれから手を付けることがある。後者については、皆さんと一緒に作り上げていくこととなるのでご協力をお願いしたい。

委員：新規就農相談（面接）の際に、住宅を探してほしいとの希望が多い。三郷に専用の住宅があるがすぐに埋まってしまうため、紹介できる体制を早い時期に検討していただきたい。

会長：セミナーでも農業関係の相談が多い。本格的に農業をやりたい人と、家庭菜園をやりたい人がいる。見極めが難しい面があるが、住まいと関連して難しいところなので協議会で検討していただければと思う。

委員：4「移住者交流事業」に関連して、新規就農者は孤独で不安な面があるため、横のつながりを作る場として、側面から支援する仕組みを作っていければと思う。仕事の面では問題ないが、地域に入ると孤独になってしまう状況がある。

委員：昨年8月に県と宅建協会が共同で「楽園信州空き家バンク」を開設した。

オプションで市町村限定サイトも開設できる。ゼロから取り組むより、県のシステムなど、既存の仕組みを使っていくと、比較的早く、安価にできるため活用してはどうか。

事務局：今回のような協議会のネットワークを有効に活用させていただき、これまでの線的なつながりから面的な仕組みでカバーしたい。情報共有をするなかで移住希望者の不安を払しょくするなど、この協議会を活かしていきたい。

会長：セミナーでは、一軒家を借りたいという人が多いが、物件がなかなか出てこない。

安曇野市はまだ人が外へ出て行ってしまうという状況ではないため、空き家の数も少ない。協議会のネットワークを活かして空き家情報も充実していきたい。

（2） 協議会の運営方法について（事務局より説明）

事務局：運営方法の説明に先立ち、「安曇野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の説明をさせていただきたい。基本目標2に「若者や女性が活躍できるまちをつくる」と掲げ、施策2として「移住定住促進体制の構築と情報発信」と定め、具体的な事業も掲げている。本協議会は、このような戦略に基づいた組織及び取り組みであることをご承知おきいただきたい。

事務局：運営方法について資料2に基づいて説明。

資料に掲げた事業以外にも、委員からご提案いただければと考えている。

(3) その他

事務局：協議会のホームページ及び「おためし住宅」について説明。

おためし住宅は、最長7日間、メゾネットタイプの建物で、1棟で2軒となっている。

おためし住宅の広報として、セミナーの開催情報と併せて関東圏を中心に新聞広告を出した。併せてTurnsのフェイスブックにも掲載を予定している。

委員：おためし住宅について、他市では観光目的の利用者を防ぐのが難しいという声を聞く。利用者に移住者交流会へ参加していただくなど、協議会で検討できればと思う。

また、市のホームページで「安曇野暮らしのスゝメ」を公開しているが、協議会ページでも公開してほしい。

事務局：協議会ページでも公開したい。また、「安曇野暮らしのスゝメ」自体の見直しも考えているため、今後協議会で検討していただきたい。

会長：あづみのFMで農業者の移住の話をしていて、消防団などの地域の活動に参加し交流することでつながりができ、助けてもらったりしたという話を聞いた。

移住相談の際は、地域の中に入っていただきたいという話をしている。移住者だけの交流ではなく、地域の人との交流も深めていただければと思う。

委員：移住者と地域の人との間で、壁があると感じる。もう少し気軽に交流ができる仕組みがあればと思う。

また、市内でも地域によって移住者の受入れ意識に特性がある。穂高は移住者を受入れる素地があるが、三郷、豊科は少し意識が違ふと感じる。地域の特色もアピールしていただければと思う。移住希望者に合った地域を紹介するなど、多様なニーズに応えていけるようになればよい。

委員：以前、移住者フォーラムをやっていたが、地元の悪口ばかり出てきた。このため、移住希望者や移住してすぐの人に安曇野市を知っていただくということで、ふるさとウォッチングという取り組みを始めた。

地元の人が生活している地域を歩くことで、観光地ではない安曇野の暮らしを知っていただき、またつながりを作っていただけて移住につなげていければよいと思う。

会長：以前もこの協議会と同様に移住に関する会議があったが、以前の会議はうまく機能しなかった。この協議会の実効性のあるものにしていきたい。

(4) 閉会（中澤副会長）